

大垣市中心市街地活性化基本計画（案）の概要

計画期間：平成20年度～平成24年度

現況

インフラ・都市環境

- 公共交通網に恵まれた西濃地域の拠点的立地
- 住環境のよさと都市機能の集積

人口・世帯、住宅

- 人口が徐々に減少
- 高齢化が進展
- 近年分譲マンションの立地が増加

市民意識、文化的ストックなど

- 駅南側に歴史・文化的な施設やまつり等が集積
- 市民活動やまつり・イベントが活発に行われている

観光、その他集客の状況

- 市内に有力企業（製造業等）が多く立地、ビジネス客が大垣駅を利用
- まつり・施設への入り込み等、スポット的には観光客が増加傾向
- 中心市街地内の歩行者通行量は減少

商業

- 中心市街地内の既存商業集積は徐々に衰退
- 既存商店街の顧客は固定客がほとんどで、その多くが中心市街地内の住民
- 大垣駅北側の大型小売店舗の出店による大垣駅南側の商業集積への影響が予測（機会）広域からの集客の増加（脅威）既存商業集積の顧客が大垣駅北側の大型小売店舗に吸引

中心市街地の区域

・平成10年策定の計画区域と同様の大垣市の中心となるエリアで、JR大垣駅の南北に広がる地域、東西約0.9Km、南北約2.1Kmの面積168haを区域とする。



課題

○民間による住宅供給が増加しており、中心市街地への居住ニーズはあるが、エリア全体の人口増加までには到っていない

○ビジネス客、観光客といった広域からの集客が増加しているが、エリア内を回遊しておらず、中心市街地全体の賑わいにつながっていない

○現状のまま既存商店街の衰退が続くと、中心市街地内の住民の買い物等の利便性に影響が生じるほか、まちの活気が低下し、来街者の回遊行動を誘導しにくくなる

活性化の理念

歴史と共にあった精神・文化の再構築と風土が喪失した記憶の取り戻し

○交流と生涯生活の場としての中心市街地

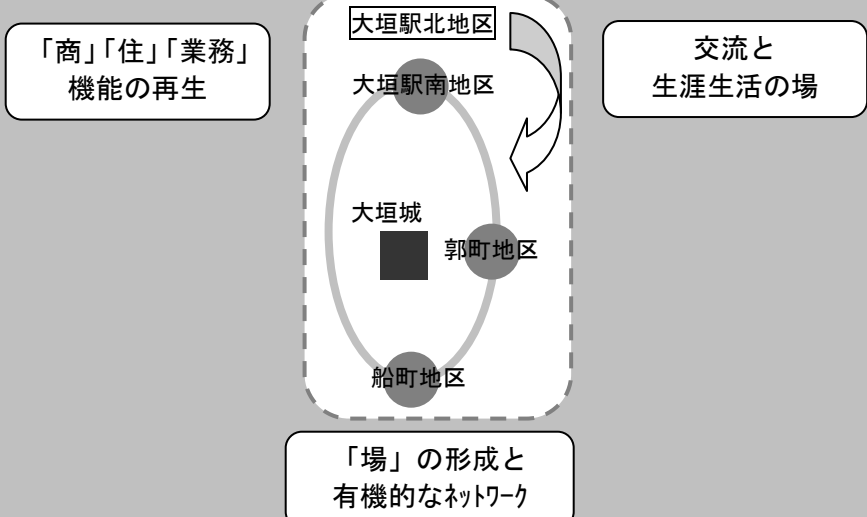
- 定住人口だけでは中心市街地内の商業をまかないきれない
- ⇒交流人口の促進

○中心市街地に「商」「住」「業務」機能の再生を

- 事業者による取り組みだけで中心市街地のにぎわいを再生するのは困難 ⇒ 居住人口の増加と業務機能（交流施設など）の再生

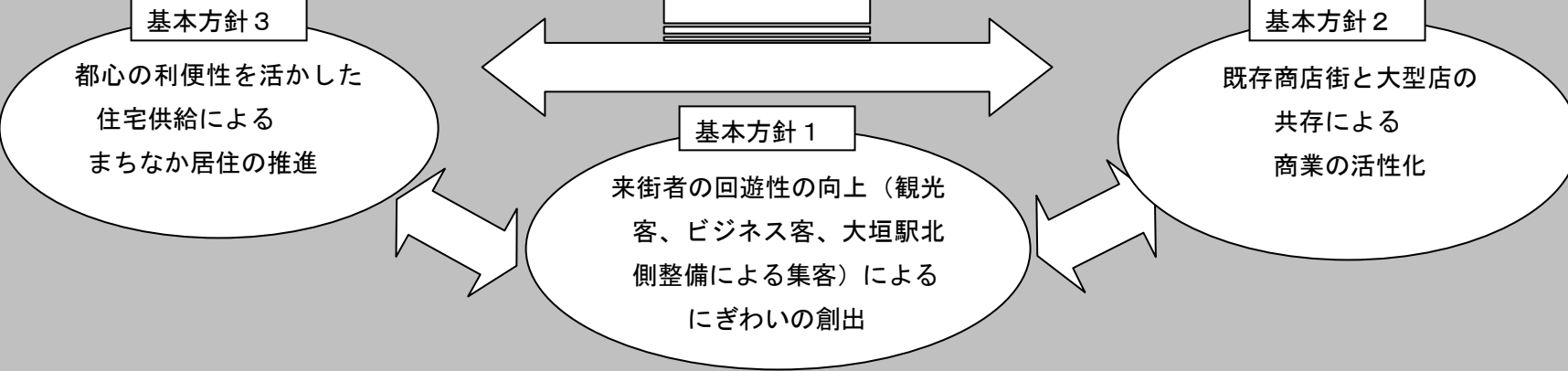
○中心市街地を再生させる「場」の形成と有機的なネットワークの構築

- 大垣駅南北地区、郭町地区、船町地区を再生の核に
- 3つの核をつなぐネットワーク整備（水門川、美濃路など）



活性化の方針

【全体方針】 歩いて楽しめるとともに、住みやすく便利な「大垣らしい」魅力を発揮し、まち全体でにぎわいを創出する



活性化の目標

